

開発型企業として技術力で顧客の課題解決に取り組み、 工場内の洗浄設備・粉体ハンドリング設備等を開発・施工する

キットは生産現場で使われるコンテナや器具等の「洗浄システム」と、固形製剤の粉体を運び、混ぜ、量る「粉体ハンドリングシステム」を事業の柱とする。これまでに顧客の課題を技術力で解決し、製薬、化学、食品等の企業から信頼を得てきた。今後も2本の柱を軸にさまざまな開発を手がけながら、事業を成長させていく。



代表取締役 三浦 大氏

- 代表者 代表取締役 三浦 大
- 創業 昭和29年2月
- 設立 昭和61年2月
- 資本金 1,000万円
- 従業員数 52名
- 事業内容 製薬・化学・食品工場のIBCハンドリング設備・洗浄設備の設計・製造・設置・メンテナンス業務
- 所在地 〒332-0015 埼玉県川口市川口5-11-19
TEL 048-255-4586 FAX 048-252-4686
- URL <https://www.kit-coltd.co.jp>

薬や化学製品、食品などの生産ラインで必要とされる「洗浄」は、容器や器具の汚れを落として衛生を保ち、製品間の交差汚染などを防止する極めて重要なプロセスだ。

株式会社キットはこうした製造工場内の“洗う”工程を担う、「洗浄システム」を根幹事業とする。自社で開発した洗浄ノズル、各種洗浄装置、CIP洗浄システムや棚式乾燥機等の製品を顧客のニーズに応じてトータルで提案。これまでに医薬品、食品、化粧品、化学プラントや鉄道の車両等、幅広い分野に洗浄システムを提供してきた。

そしてもう一つの事業の柱が、工場内の生産機器をつないで、加工対象となる粉粒体をスムーズに“運ぶ・混ぜる・量る”システムを構築する「粉体ハンドリング」である。

「現在事業の柱は二つですが、元は洗浄機の要素技術に、ノズルを昇降させたり容器を反転させて洗うというものがあり、それが粉体ハンドリング事業へとつながっています」（三浦大社長）

同社は、顧客の製造現場に最適な運用法を提案し、設計から製作、据え付け、メンテナンスまでワンストップ

プで行う開発型企業である。

→ ステンレス加工技術を生かして業容拡大

同社は昭和29(1954)年、三浦社長の祖父が創業し、洗浄ノズルの部品などステンレス製品の切削加工で事業をスタートさせた。その後、ステンレス加工のノウハウを生かして、自社でノズル本体の開発と製造を開始する。

「プラントのタンクや食品の練り物のタンクなど、さまざまなものの洗浄装置を手がけていたそうです。その後、製薬製造で使われるコンテナ容器の依頼などがあり、少しずつ事業が展開していきました」

最適な洗浄システムを提供して信頼と実績を積み上げながら、ステンレス加工技術を生かして医薬品製造の現場において、“洗浄しやすい”という切り口でコンテナ容器の開発も手がけていく。こうして会社を成長させ、業容を広げていった。

そんなある日、顧客の製薬会社から新たな依頼が舞い込む。容器を反転・回転させて洗浄する工程を見た担当者から「その機能だけを持つ装置をつくれ

ないか」という依頼であった。薬の原料が入ったコンテナを持ち上げ、反転・回転させて混合や投入する工程で使いたいのだという。

こうして洗浄機の要素技術を切り出し、横展開して粉体ハンドリング事業がスタートする。

「医薬品の製法の変化や製造ラインの無人化への流れ、ジェネリック薬品の増加でよりニーズは増え、当社がさらに飛躍するきっかけになりました」

その後「材料を投入する装置がほしい」「秤量してほしい」等の依頼に応えながら、製剤工程の粉体に求められる容器や移送装置、秤量装置などの設計技術を身につけていく。それを食品、化粧品、化学製品へと展開し、活躍のフィールドを広げていった。

➔ 2本の柱を支える提案力と開発力

洗浄システム事業において、重要なデバイスとなる“ノズル”。同社が独自開発した洗浄ノズル「KITノズル（回転式タンク内洗浄用ノズル）」は、モーターなどの外部駆動を利用することなく、洗浄液の水圧で駆動し、2次元・3次元の回転をして高圧噴射で洗浄する製品だ。さらに、洗浄時にノズルを昇降させてタンク内をまんべんなく洗浄する「水圧シリンダー」も外部駆動が不要な水圧式で開発。これによって、従来品のようにオイルブレーキやマグネット磁石による回転調整がないためオイル汚染の心配がなく、防爆エリアや医薬品、食品など、より安全性が求められる製造現場で使われている。

ほかにも電気やエアで駆動するノズルやノズル昇降装置、ポンプタンクユニット等も自社製造で取り揃える。それらを組み合わせて「大型タンクを自動で洗いたい」「複雑な小型容器をむらなく洗いたい」「人体に強い薬効を与える高薬理活性物質を確実に封じ込めて洗浄したい」等、用途に応じて確実に安全な洗浄システムをつくり上げていく。

一方、粉体ハンドリングは、主に固形製剤の生産ラインで、顧客の用途に合わせた容器や容器を持ち上

げるリフター、混合機等を設計・製造する。さらに、コンテナと装置を確実に接続して中身を投入するドッキングシステムや生産機器と機器をつないで円滑に移送するシステムもゼロベースで開発する。

「お客さまが必要とするものがすべて違うので、一から設計をするオーダーメイドです。市場が大きいのに時間と手間がかかって難易度が高く、非効率的。だから大手の資本が入りにくく、その分当社の付加価



値が高まってくるんです」

同社が設計・開発した製品に顧客が満足すれば、その後のリピート品や展開品の依頼も“キットに発注しよう”という流れになる。さらに、新たに難易度の高い新装置を開発するとなった時、声がかかりやすくなる。これこそが同社の狙いである。

➔ 強みをさらに鍛え上げていく

「洗浄や粉体ハンドリング以外の開発の依頼もきています。それこそが、われわれがつくり上げたい自社のブランドで、『キットならつくってくれる』そう思ってもらえるために技術を磨いています」

三浦社長は外資系の総合電機メーカーを経て事業を承継するべく同社に入社。セールスエンジニア業務を行いながら1年ほど社内をじっくり見渡し、「どこに熱量があるかを観察した」という。答えはすぐに見つかった。創業以来その温度が下がることがなかった場所——それが開発・製造部隊であった。

「事業承継に向けて会社をどうするか、僕の考え方はシンプルで、熱量を持ってある方向を向いている

の好循環が成長と飛躍の原動力となっているのだ。

→ 新機軸となった開発の数々

顧客の依頼で開発した製品に、ペースト状歯磨き剤の製造・充填ラインの洗浄およびハンドリング装置がある。これまで粉体を主な対象に装置を設計してきた同社にとって、ペースト状の加工剤移送は新たな挑戦であったという。また、無菌状態の製造環境で生産されるワクチン製造ラインを構成する装置にも取り組み、半年ほどで完成にこぎつけた。このラインには同社の装置が多数採用されている。

「お客さまが求める新しいものを1回でつくる。そのことに注力して開発を進めています。開発部隊は案件ベースで仕事を進めていて、飲み会やイベントによってではなく、仕事そのもので社員の一体感が生まれている、という感じです」

社員は各年代それぞれ、バランスよく在籍し、8割は設計・開発・保守に携わるエンジニアだ。中にはアシスタント業務の事務員として入社したが設計技術を学び、技術者として活躍する女性もいるという。

→ 顧客から頼られる会社を目指す

今回のコロナ禍においては、主要顧客が製薬会社であることなどから、逆風よりも追い風が吹いている状況だという同社。その勢いに乗って、今後も創業以来続く“開発型企业”として、柔軟な発想と姿勢で会社を成長させていく考えだ。

「強くて、かつしなやかな会社を目指していきたい。そして常にお客さまから頼られる存在の会社、この二つを追求していきたいです」

顧客の依頼に応じて粉体ハンドリング事業が誕生したように、今後もさまざまな案件に取り組みながらしなやかに業容を広げていくであろう同社。盤石な2本の柱をより太く成長させながら、顧客の期待を軽やかに超える開発を手がけていく。



ものがあればそれを徹底的に強くしていこう、と」

そこで、これまで手がけたことのない装置の開発依頼も、臆せず果敢に挑戦していった。高額なソフトウェアや3D CAD、シミュレーターを導入して、顧客と一緒に装置をゼロから仕上げていく。こうしてモノづくり集団としての知見とスキル、経験を積み上げ、同社の存在感を示していった。

「失敗は数多くありますが、その経験があることで新たな依頼が入ることもあります。また、難しい装置を開発・製造すると、当社でなければメンテナンスできませんから安定した収益が見込めます」

2本柱の売り上げとメンテナンスという安定した収益があるからこそ、新たな案件に挑戦できる——こ